

総合診療棟完成

— 令和2年7月1日 —



玄関ホール



外科処置室

園内日誌

令和二年 四月～六月

令和二年 四月～六月 (敬称略)

【謝寄贈図書欄】

※ 観桜会行事 (抽選会)

《四月》

多磨 東京都多磨全生園
菊池 熊本県菊池恵楓園
楓 岡山県邑久光明園
愛生 岡山県長島愛生園
青松 香川県大島青松園
始良野 鹿児島県星塚敬愛園
甲田の裾 青森県松丘保養園
手をつなぎともに生きる社会へ

沖縄県 沖縄愛楽園交流会館

※ 春季バス旅行 (塩釜方面)

《五月》

《六月》

※ 第三十七回高松宮記念杯
近隣親善GB大会

※ 新型コロナウイルス感染症防止のため、三月より園内外の行事、見学等活動中止

令和2年9月10日 印刷
令和2年9月20日 発行

発行 東北新生園楓会(自治会)
編集 楓会文化部
印刷 川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

発行所 東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第七十二卷第三号……………目次

表紙…「夏の風景（園内全景）」

総合診療棟開設に寄せて……………	総看護師長…菅原セイ子…(2)
よろしくお願ひします……………	調理助手…後藤マリ…(5)
よろしくお願ひします……………	調理助手…鈴木良子…(7)
宜しくお願ひ致します……………	調理助手…菅原利美…(9)
療養所の今を訪ねて……………	公益社団法人好善社理事…川崎正明…(12)

|| 新生文芸 ||

詩……………	選者…佐々木洋一…(15)
短歌……………	選者…皆川二郎…(17)
俳句……………	選者…山田桃晃…(19)
川柳……………	選者…栗石隆子…(21)
よろしくお願ひします……………	調理助手…石川ユキ…(23)
よろしくお願ひします……………	調理助手…石川ユキ…(25)
四コマ漫画「クマの日常」……………	堀江由美…(26)
園内日誌・謝寄贈図書……………	

総合診療棟開設に寄せて

総看護師長 菅原 セイ子

この度開設された総合診療棟は、「治療棟・病棟等複合施設整備計画」として平成二十八年から具体的に設計が始まり、私が新生園に赴任した年でもありました。当時私は、看護部門としても取り組むべき最優先課題だと思いました。

新総合診療棟については、平成二十五年度から検討された「東北新生園将来構想」の一環で、医療・サービ部門整備に属するとお聞きしました。また「将来構想図」について、楓会久保会長さんからの説明を聞く中で、この「医療サービ部門」のほか、「居住者」「イベント」「自然公園」など、地域との連携も

考えた様々なエリアを想定し作成されていて、十～二十年先の将来を見越して考えられていることに感動したことを覚えています。

これまで園内では、平成十九～二十年の不由者棟（第一・第二メープルケアセンター）の建設に伴い、一般寮もほぼ集約化が達成できており、ハンセン病療養所の中でも当園は先立って入所者の住居施設等が整備されていると感じていました。

さて、入所者の皆様にはご不便をお掛けしましたが、治療棟・耳鼻科と眼科は平成三十年から今年にかけて、山鳩センターを仮設治療棟とし診療が行われました。この間、入所者の方々が仮設通路で迷ったり転倒しないようにと、職員は通路の表示等さまざまな工夫をしてくれました。

いよいよ今年三月、新総合診療棟が完成し、六月に移転作業が行われました。一階は、内科・外科・耳鼻科・眼科・歯科の治療棟各診

察室と内視鏡室・超音波検査室・検査科・放射線科があり、第一メープルケアセンターと通路で直結しています。二階は薬剤科・医局・医療安全管理室等となっています。三階の第一病棟は個室と二床室を中心とし二十床の病室があります。各部屋の窓からは睦が池とグラウンドが一望でき、夏の花火大会も園内で最も見晴らしの良いスポットとなると思います。

病室は部屋ごとに色分けされて、モダンな内装となっています。個室には大きな洗面台と、車いすでも使用しやすいトイレが整備されています。また、浴室も機械浴が設置されたストレッチャーや車いすの方も安全に使用できる設計になっています。中央廊下の両窓からの採光もよく、病棟全体がとても明るい雰囲気となっています。



第1病棟 食堂ホール



病棟ナースステーション



病棟

今後は、総合診療棟北側となった旧病棟が取り壊された後に、玄関ロビーが造られ直に登米市市道に繋がる予定です。園全体の風景や建物外観も、現在と少し違った印象となることでしょう。

今年は大変残念ですが、コロナウイルス感染拡大防止のため、竣工式や内覧のご案内等、行事を行うことができず、入所者の方々にも密にならないように分かれて見学していただくような形になりました。

三階の病棟食堂ホールから見る眺望は園内で最高です。今後、状況が落ち着き、少しずつ集まる事ができる様になりましたら、皆様と一緒に活用していきたいと思えます。

新しい総合診療棟の開設を迎えて、私達職員は病棟とケアセンターの連携をとりながら、これからも入所者の皆さまに、「明るく、活き活きした看護・介護を届けよう」という気持ちで新たにしております。

よろしくお願ひします

調理助手 後藤 マリ

四月から栄養班の洗浄に勤務しております、後藤マリと申します。

自宅は車で十分程で着く迫町新田に住んでおります。周りには何も遮るものがなく、のどかな田園が目の前に広がっています。冬には雪化粧した舟形連峰や天気が良いければ蔵王山が見えます。とても良い景色です。家の周りに街灯などの光がないので、夜には満天の星空が見え、子供と天体望遠鏡で天体観察をしたりしています。

体を動かすのが好きでボディボードやヨガなどをしています。

ボディボードでは本吉の小泉海岸や東松島の大曲、遠くは福島県まで行って行きました。



病棟スタッフ

今は東日本大震災の影響で海には入れませんが、朝陽を浴びながら入る海は気持ち良かったです。波に上手く乗れる時もあるれば、波にのまれる時もありました。機会があれば今度はサーフィンをしたいと思えます。

ヨガではパワーヨガをしてみました。パワーヨガとは心身を安定させるのに最適なヨガで「動」と「静」のヨガといえるでしょう。呼吸に合わせて、姿勢を変えながら流れるように動き続ける「動」と完成のポーズで呼吸に集中しながら姿勢を調整し、余分な力を抜いてその姿勢を保つ「静」と。ポーズを作り出すまで一呼吸一ポーズをつなげていく「動」、流れの後にポーズに集中する「静」を繰り返すうちに心身ともに安定していきます。

また、運動量が多いので、代謝がよくなり集中力強化、ストレス解消にもなります。まさに心身を安定させるのに最適なのがパワーヨガです。

配膳車、下膳車の運搬回収時に入所者様から「いつもありがとう」「ご苦労様。重いのに大変だね」「ご馳走様でした」などと笑顔で温かい声をかけていただく事があります。その時は嬉しく、心が和みます。これからも真心を込めて美味しいお食事を届けたいと思います。



よろしくお願ひします

調理助手 鈴木良子

平成三十一年四月十日より、栄養班洗浄業務をしております鈴木良子と申します。宜しくお願ひ致します。

私の出身は石巻市です。実家の近くには日和山公園があり、石巻市内を一望出来ます。旧北上川の河口から広く太平洋が広がり、天気の良い日は田代島や綱地島など牡鹿半島を見ることが出来ます。春になると、ソメイヨシノや八重桜など約四百本の桜が咲き、毎年多くの花見客で賑わいます。夜にはライトアップもあり、とても綺麗です。

八年前、東日本大震災の津波で日和山から

見る光景は、あまりにも辛く言葉にはなりませんでした。悲しくて涙が止まりませんでした。当時全国からボランティアの方が来て下さったおかげで、瓦礫の山も無くなり新しい道路もでき、復興していると感じております。

私の家族は四人家族です。息子は大学生で、仙台で一人暮らしをしております、現在は夫と高校生の娘と三人暮らしです。私の自宅からは、天気が良い日は栗駒山が見られます。車で五分ほど走ると大嶽山があり、六角堂があります。また観音堂外壁にとても綺麗な彫り物があり、カラフルで凄く見応えがあります。梅雨になると、アジサイの花がとても美しいです。子供達が小さい時は、よく散歩に連れて行きました。子供に手が掛からなくなつた時、実家の両親が体調を崩したのを機に、介護の資格を取り、訪問介護の仕事をしたがら親の介護もしております。

父親は漁師だった為、魚料理が好きなので、

サンマのつみれ汁や白身魚のムースにしたり、食事が取れない時は、飲む点滴と言われている甘酒を飲ませていました。父親は甘酒を飲むと、いつも「美味しい、美味しい」と言っていました。父親が亡くなって四年経ちました。甘酒を見ると、あの時の父親の事を思い出します。

母親は特養施設老人ホームに入所していません。休みの時は母親の所に会いに行つて、色々な話をしてくれます。母親は編み物が得意なので、色々な物を編んで過ごしています。母親には元気で長生きして欲しいです。

東北新生園で働き始めて一年経ちました。広大な敷地の中には公園もあり、池の中には沢山の錦鯉が泳いでいたり、春には桜、夏は花火、秋は紅葉、冬にはイルミネーションがあり四季を感じます。お昼休み中、とても鮮やかな紅葉なので、思わずスマホで写真を撮りました。先輩が、「新生園のイルミネーションは綺麗だよ」と話していたので、イルミネー

ションを見るのが好きな私は点灯を楽しみにしていました。点灯した時は、聞いていた通りとても綺麗で感動しました。

配膳車と下膳車を移動する際、各テーブルには、毎月季節にちなんだ飾り付けを目にします。和紙で作った花と七夕飾り羽子板飾りなど、とても美しく可愛い飾り付けは、すごく上手で毎月楽しみに拝見しております。

勤務してから三か月たった頃、体調を崩し仕事中に倒れてしまい、救急車で運ばれました。あの時は看護師長さん、先生方、栄養班の皆様には大変ご心配ご迷惑をおかけしました。私が休んでいる時、栄養班の皆様には仕事に協力して頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。係長と主任には「体が大事だから、早く良くなってね」と優しいお言葉を頂き、感謝しております。感謝の気持ちを忘れずに、これからも頑張りますので宜しくお願いします。

宜しくお願い致します

調理助手 菅原利美

私は、平成三十一年四月十一日より、栄養の調理助手として洗浄の仕事をしております。新生園に勤める前は、登米市内の医院で給食の調理師をしていたのですが、入院施設の閉鎖により給食の仕事は契約終了となつてしまいました。転勤の話もあつたのですが、住み慣れた登米市から引越しをする事も出来ず、私は失業する事になりました。それが三月の事で、四月からはご縁があり、新生園で働けることになりました。心機一転頑張っております。

自宅は市内迫町佐沼です。新生園までは少し距離が有り、これまではなかなか新田の方

に来る機会はありませんでした。季節を感じながらの通勤です。採用初日も四月というのに雪の日でした。印象に残っています。

さて、私の趣味のお話をしたと思います。旅行やアーティストのコンサートに行ったり・お菓子作り、また、手先を動かす事が好きで、手芸・編み物などの作品を作ったりもします。この冬はニット帽を五つ仕上げました。一つは自分用、他の四つはプレゼントして喜んでもらいました。

一昨年と昨年は、ハンドメイド教室に通っている色々な作品を教えて頂きました。

教室は一ヶ月に一度、午前中の半日なので手の込んだ物は出来ませんが、フラワーアレンジメントや、陶芸でお皿を作ったり、可愛いリース・アクセサリー・ハーバリウム・つまみ細工など、作品が出来上がると気分もほっこり嬉しくなります。また教室の皆さんと作品を見比べて話も盛り上がります。

自宅にも作品を飾ったりして癒されています。
そして、新生園に勤めてからは入所者様の
作品を拝見させて頂いて関心しております。

また、職員の方の季節ごとの展示物にも目
を引きます。色鮮やかな作品、インパクトの
ある力作には驚かされ、興味深く見入ること
もあり、感動を貰っています。

もう一つ趣味の紹介は『御朱印集め』です。
ここ数年、御朱印ブームで興味はあったので
すが、初めて戴くのは何か特別な所がいい
なあと考えていたところ、機会があり明治神
宮で戴くことが出来ました。御朱印デビュー
は紫の地味な模様の御朱印帳でした。もっと
可愛いのが良かったなあと…笑。(いえいえ
明治神宮で良かったと思います。)

その後も旅行先や出張の機会(前職)に御
朱印を戴いており、遠くは宮崎県の青島神社・
大阪の住吉大社・東京の大国魂神社・代々木
八幡宮・富岡八幡宮・新潟の白山神社・湊稲

荷神社・宮城県内もたくさん廻りました。定
義山の御朱印も三箇所戴いて有りますよ。

昨年は元号が令和に変わったので、平成最
後の御朱印と令和最初の御朱印と記念として
戴きました。(令和初日、テレビ局の取材を
受けたのですが、お蔵入りだった様です。)

御朱印は神社に限らず、お寺でも戴けます。
気仙沼の地福寺では住職さんに素敵なお伊
入りの御朱印を丁寧に書いて戴きました。
お寺には震災のパネルも展示されていて、奥
様には当時の様子を聞く事ができました。お
寺からは震災遺構となった気仙沼向陽高校が
見えます。

「めげない
にげない
くじけない」

とても感慨深い御朱印です。沢山の感動を貰
いながら、御朱印帳も五冊目になりました。
広げてみるとまた圧巻です。

パワースポット巡りも有意義な時間となつて
います。

これからも仕事も頑張り、趣味の癒しの時
間も楽しみます。入所者の皆様とは直接お話
しする機会は少ないのですが、元気に挨拶を
させて頂きますので、どうぞ宜しくお願い致
します。



療養所の今を訪ねて 新生園は鎮魂の千本桜の里に生まれ変わる。

公益社団法人好善社理事 川崎 正明

二〇一九年十月二十九日（火）に、二年ぶりに東北新生園を訪問した。好善社が一九八四年、この療養所で初めてワークキャンプを実施した。故・藤原偉作理事長のもと、学生・社会人二十一人が参加、四十七歳の私もその一人だった。入所者も一緒にツルハシやスコップで開墾、後に納骨堂（霊安堂）が建つ造成工事に汗を流した。左下の写真はその時のキャンパーたち。その後二年間ここでワークが続いたが、終焉期を迎えた今、好善社が行ったワークの意味を厳粛な思いで振り返つ

た。ハンセン病療養所に初めて行った私にとつて、その後の人生の転換点になるような経験をし、現在まで三十五年間の訪問が続いている。

久保瑛二自治会長と会い、現在の園の状況を伺った。十四歳で入所された久保さんは今年八十六歳、若い日に野球とマラソンで鍛えた体力のもと、五十四年も自治会長を続けておられる。

みちのく東北新生園



睦ヶ池より「メープル・ケアセンター」を望む。
2019年10月29日（撮影／川崎正明）



一九三九年開設の新生園は、今年十月で八十周年を迎えた。現在入所者は五十七人、平均年齢は八十七・八歳。会長は国の強制隔離によって開設されたことを祝うことはできないが、暗い歴史を嘆くだけでなく、現実の中から園の将来構想を熱く語られた。

好善社のワークキャンプ（納骨堂の造成工事）1984年。ここに現在の霊安堂（右）が完成した。





東北新生園の俯瞰図(35万平方M)。かつての居住舎(下)が解体されている。2010年頃。園のHPより。

生きた証しとして桜の植樹

ピーク時の入所者は七百人だったが、八四七人が他界、その故人への鎮魂の桜を八五〇

本植えたが、あと五年で千本になる。練りに練って作成した将来構想図の実現の夢を「新生園はやがて千本桜の里に生まれ変わる」と語られる久保会長にロマンを感じた。
 三つのキリスト教会(新生園伝道所、キリスト教信交会、カトリック新生園教会)は、いずれも信徒が激減したが、集会の形を工夫して、細々とはあるが、礼拝(ミサ)を守り守るような思いで継続している。ご高齢と認知症などの為に、かつてのような訪問はできなかったが、それでも五人の方にお会いして、懐かしい思いを分かち合った。
 メーブルケアセンターは、磨かれたように綺麗で、温かさに包まれていた。久保会長は、「来年四月に来て下さい。桜が満開です」と言われた。鎮魂の千本桜の里の成り行きを見守りに行こうと思った。

2019年10月・記
 好善社発行「ある群像」116号より転載

新生文芸

詩

佐々木 洋一 選

◇ 入 選 ◇

《糖尿病との闘い》

齋藤 照雄

私は糖尿病というやつに
 目耳両足を取られ
 途方に暮れベッド生活を
 余儀なくされていた
 そこへ丁度

私の担当のドクターが来られた
 私は途方に暮れている事情を
 話していた

あっそうか
 うん君は勝手
 暴飲暴食にふけていた事があつた
 と聞いた事があるが
 そのつげが
 気の毒だが回ってきたんだ
 ドクターに言われ
 大変ショックだった

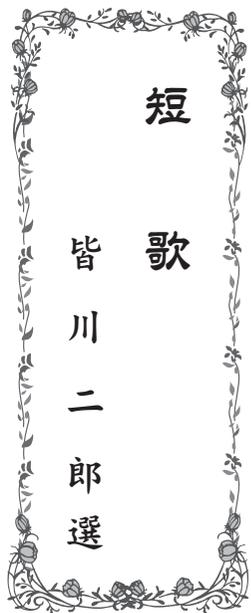
そのショックもドクターのお陰で
 インスリンを調整して頂き
 ナースに打ってもらっていたら
 だんだん良くなってきたようだ
 口の方は喰う口と食べる口
 しゃべる口を持っているから
 これが取り柄だな

【選評】 他は全て医療関係者はじめ
色んな方の手にすがっている
食べ物もドクターのカルテに基づき
給食から出してもらって食べている
全て何も食べない生活が続いている
そのせいだろう
糖尿病が安定している
お世話になった方々に
感謝申し上げている
これからもドクターの指示を守り
糖尿病と手を繋ぎ
頑張っ行ってきたい

【選評】 《糖尿病との闘い》

齋藤 照雄

糖尿病で大変な作者が、終連の「糖尿病と手を繋ぎ」にまで辿り着くには紆余曲折があつたと思えます。が、作品の節々から醸し出されるユーモアや誠実な思いは、そんな紆余曲折を払拭しています。謙虚な気持ちも清しい。



◇ 入 選 ◇

今野 きよし

しとしとと雫の垂るる物干しを眺めて
早き梅雨明けを待つ

【選評】

今年梅雨前線が次から次と北上し、全国のいたるところに被害をもたらしている。梅雨は気分も晴れず一日も早い梅雨明けが待たれる。この一首上句の具体的な情景把握と表現を受けて、下句の作

者の思いが素直に表現され、かつ
照応も良い。

菊地 尚樹

何事か諦めた者のまなざしに母は老眼鏡の
つるを畳みぬ

【選評】

母を見る作者と母を案じる作者の両面が具体的な表現によって感じさせる一首である。上句は、作者の母を見ての感じであろうが、下句によって、さらにそれを具体的に表現しているので読者にも見えるようである。

今野 きよし

体拭き「後から来ます」と看護師の残す言葉に愛情こもる

【選評】

作者と看護師の日常の姿まで見えてくるような温かい雰囲気を感じさせてくれる。看護師の一言、それを受ける作者の感じた下句の表現によってこの一首全体に温もりを持たせている。

佳作に選んだ「いそいそと・・・」の一首から作者の思いを知り、なんとなく評者も温かな思いになった。

菊地尚樹

よちよちときらめく小川に歩み寄り両手を上げて跳びはねる子よ
母親の代わりになれぬととびきりの「高い高い」と「肩車」する

◇佳作◇

今野 きよし

朝早く食事を終えて見渡せば暗き空より梅雨の雨降る
いそいそと我が家係の介護員帰りし後のしんと寂しき
ここにきて短歌の世界のありがたき趣味の広さをしみじみ思う



俳句

山田桃晃選



◇入選◇

今野 きよし

大津波の痕跡見えず夏の海

【選評】

岩手・宮城・福島県等の三・一
一の東日本大震災のあの恐ろしい出来事、早や九年過ぎても夏の海には、あの痕跡はどこにも見えない夏の海・海原を船が行き交う穏やかに見えるが何か複雑な思いが秘められている昨今である。

今野 きよし

裏山の眺めは豊か蝉の声

【選評】

裏山は故郷いつどこから眺めても素晴らしい、春は芽吹き、秋は紅葉と輝く素晴らしい山、今は蝉時雨が心にしみ入る豊かな山茸なども顔を出して居る生きる喜びの山。

斎藤 照雄

職員の手により夏草刈られおり

【選評】

夏草刈られおりと言うわざわざ草刈りに夏を入れたのは、草の茂りむぐらの様に荒れ果てた様をあらわしたのだろう。職員さんの手を借りての作業皆様の力により美しい庭が出来上がり、涼しげな夕暮れは楽しい。

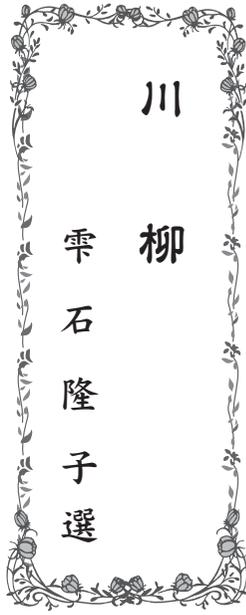
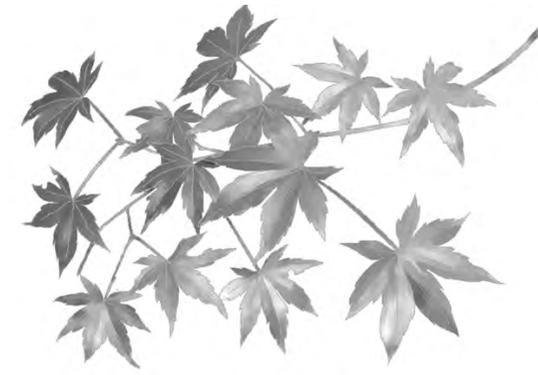
◇ 佳 作 ◇

今 野 きよし

満腹の姿で泳ぐ鯉幟
歌碑の丘日光黄管点々と
思い切り天を仰いで蓮の花
ネクタイは彼女の好み更衣
水見舞耳をつんざく返事かな

斎 藤 照 雄

夕涼みナースとヘルパー間を置いて
療の空なにやらギャーギャー渡り鳥
仏壇に供えし造花の彼岸花
盆棚へ家にあるものみな供へ



◇ 入 選 ◇

《人位》 長 沼 蓮 花

帰りたい娘のメールに待ったかけ

【選 評】

コロナ禍で不要不急の外出は自
粛を求められ、家族との交流もま
まならない昨今である。待ったを
かけるも安全を願う親心である。

《地位》

斎 藤 照 雄

目をなくし心眼とやら居てくれた

【選 評】

視力を失う、という一大事にも心
眼があると悟りの境地。これも又生
き抜くための知恵でもありません。

《天位》

今 野 きよし

亡き妹の宛先欲しい宅急便

【選 評】

先立った妹を偲ぶ一句。時折は
宅急便で贈り物をし合っていた仲
良し兄妹。中七の措辞に妹への哀
惜がいつばい溢れている。

◇ 佳 作 ◇

齋藤 照雄

シグナルは青だ前進あるのみだ
水やりを続けたこの木実を結び
シワ白髪ないまま八十路おじいちゃん

千 歩

秋だよとアケビの口元笑いだす
秋が来て十%増えた体重計
雨風を素知らぬ顔でアザミ咲く

長 沼 蓮 花

父の日に初給料で花届き
県またぎ初ボーナスはサクランボ
姑と手作りマスク競い合い

今 野 きよし

しなやかな踊りの揃う吹流し
しばらくと力みなぎるハイタッチ



よろしくお願ひします

調理助手 石川 ユキ

昨年の四月から栄養班に勤務させて頂いて
おります、調理助手の石川ユキです。

私は大崎市古川で三人兄弟の末っ子として
生まれ育ちました。兄が二人いますと「お兄
さん達に可愛がられてきたでしょう？」と言
われる事が多いですが、実際は可愛がられる
には程遠く、兄二人がとても仲が良く、なか
なか二人の中には入れてもらえず、今思うと
一生懸命兄達の後をついて回っていたと感じ
ています。お人形遊びやおままごと、女の子
らしい遊びとは無縁でした。兄に憧れ、ヒー
ローものを見て真似をしたり、野球をしたり、
釣りをしたり、虫取りをしたり、プロレス技

をかけられたりとたくましく育ちました。

二、三年程前から、プロ野球楽天イーグル
スの観戦に夢中になり、現地で観る野球は一
体感がありワクワクします。一流スポーツ選
手のプレーを見る事で、同じチームやスポー
ツが好きな仲間と盛り上がる事に最高に喜び
を感じています。今までスポーツ観戦という
と男性中心で女性はなかなか行きにくいとい
うイメージでしたが、近年どのスポーツも女
性が観戦しやすいように、色々なイベントを
したり、雰囲気を作ってくれています。そん
な球場での観戦をより充実したものが、グル
メなどもあると思います。野球を観ながら楽
しめるグルメも沢山あります。特にグルメで
驚いたことがあります。お酒のおつまみやデ
ザートに選手達が使用しているヘルメットの
デザインが、手のひらサイズで見た目も
可愛く野球観戦をより楽しめそうで、観戦し
ながらグルメも堪能できて楽しいです。今年

は観戦に行けるかわかりませんが優勝してほしいです。

初めて新生園に来た時は自然の中であり、私が生活している場所と似てると、親近感がありました。新生園に来た頃は桜並木がすごく綺麗で今でも目に焼き付いています。夏は夏祭り、花火があると話を聞いた時はとても驚きました。仕事をさせて頂きながら季節も感じれる所です。給食で行なっている新生茶房のお手伝いをさせて頂いた時は、入所者さんの笑顔に触れられ、楽しく過ごさせて頂いた事は、今では忘れられない思い出となっています。

まだまだ皆さんにご迷惑をかける事もあると思いますが、色々教えて頂きながら給食を通してお役に立てるようになりたいと思います。

これからもどうぞ宜しくお願い致します。

よろしくお願ひします

調理助手 石川 るみ

はじめまして。この二月から、栄養班給食係として勤務させて頂いております、石川 るみと申します。

私は登米市出身です。その中でも田んぼと山に囲まれた、のどかな所で育ちました。学校の行き帰り、春には山いちごやグミの実を取り、夏には畑からいまだトマトやきゅうりをおやつとし、秋には山栗を拾って歯で皮をむいてポリポリと食べ、冬には降り積もった雪を「かき氷だー」と、何のためらいもなく口にするというような、今考えてみればかなりワイルドな子供時代を過ごしました。

ですが、このような事を楽しみながら育て来られた事はとても幸せな事だったと、今更ながら気付かされています。

新棟玄関ホール 「七夕飾り」



入所者・職員との協同作

久保会長と一緒に

四季というものを気候で感じる事はもちろん、野菜や木の実等でも「あ、この季節が来たのだなあ」と思えたのは、とても貴重な経験でした。今では、一年を通して色々な野菜も手に入れる事はできますが、やはり旬の野菜の味は格別ですね。

私の家でも小さな畑を作っています。大変手間のかかるものです。枝豆の種をまけば、程良く芽が出てきます。明日収穫しようとしているトウモロコシは、その前夜ことごとくタヌキに食べられてしまい、私達が口に行き得る方が少ないということも、しばしばです。それでも土を耕すのは、やはり大自然に生かされているということなのでしょう。作物が採れるのは、当たり前なことではありません。いろんな物に感謝して、大事にしていくことを心掛けながら、楽しんで仕事に取り組んで行きたいと思っています。

どうぞよろしくお願ひ致します。

らいねんはいつしよにみれたらいいね
 ぼりえ ゆみ



ママの日常



元副園長 森芳正先生より寄贈
新棟玄関ホールにて設置



ありがとう
ございました